

～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第40回 山口県下関市



一般財団法人 日本不動産研究所

ない観光が長府ではおすすめである。それは道の傍らの土塙である。あれゆる民族、國家が、見えたる城壁をはりめぐらして対立しているのが現代の情勢だとすれば、城下町の土塙はその縮図のようなものである。前時代の、いかめしく築かれた武家屋敷の土塙は乱世の武装の役目を終え、風化しつつある土塙が長府にある。

長門国の国府

長府とは長門国の国府が置

地、日本の玄関

と言えるだろう。

時代は下り、この国府の地

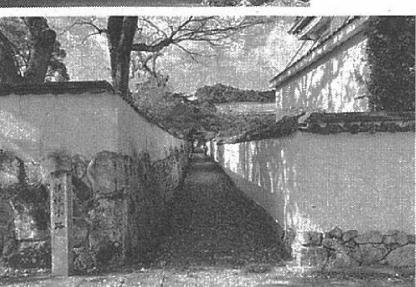
古くからの門前町である長

府商店街に面する忌宮神社の

年に秦の始皇帝が、蚕の卵を奉獻したとされ、蚕種渡來の代が、蚕の卵を奉獻したとされ、蚕種渡來の地となつていて、現在の忌宮神社が古代シリ

クロードの東端地、日本の玄関

左大陸から養蚕が渡來した地であることを今に伝える記念碑（下長府商店街に近く）木神社の横にある横枕小路



心解きほどく風化する土塙 足で巡る絹の道と城下町

本州西端に位置する山口県下関市の長府には忌宮（いみのみや）神社、功山寺、長府毛利邸などの観光名所が多い。これらの観光地を訪れる際の交通手段は車が主になりがちである。しかし、車に乗って通り抜けるだけでは味わえない。

かれたことから、付けられた地名である。西暦1933年に

は仲哀天皇が神功皇后と共に、豊浦の富

忌宮神社から功山寺に練り

道沿いには土塙が多く、壇具枕小路である。この付近を歩

いたところから、付けられた地名である。西暦1933年にかれた。これは仲哀天皇が神功皇后と共に、豊浦の富をこの地に定めた。両者を祀る忌宮神社の境内には「豊浦皇跡」の碑などがあり、仲哀天皇殯殮地（ひんれんち）、すなわち仮埋葬地として案内図にある。

練り塙の古江小路

忌宮神社から功山寺に練り

道沿いには土塙が多く、壇具枕小路である。この付近を歩

いたところから、付けられた地名である。西暦1933年にかれた。これは仲哀天皇が神功皇后と共に、豊浦の富をこの地に定めた。両者を祀る忌宮神社の境内には「豊浦皇跡」の碑などがあり、仲哀天皇殯殮地（ひんれんち）、すなわち仮埋葬地として案内図にある。

風情ある路地散策

きている限り、大きな仕事ができると思うなら、いつまで

でも生きよ。死ぬほどの価値のある場面と思ったら、いつ

でも死ぬべし」と教えられた

高杉晋作が挙兵した功山寺で

も碁盤の目ではなくT字形に

高田有章



忌宮神社付近に掲げられた観光案内図

ある。

また、日本三

代実録によれば、西暦195

木神社の横にある横枕小路

も碁盤の目ではなくT字形に

高田有章

が心の結び目を解きほどぎ、互いの土塙を取り扱うと世界は平和となり、人生をより一層樂しめるだろ。